
レンズ越しの訃音

夜鷺香琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レンズ越しの訃音

【Nコード】

N1451C

【作者名】

夜鷺香琉

【あらすじ】

気紛れに書いたエッセイみたいなモンです。

アマキ
雨樹・・・お前の恋人はスケッチブックと鉛筆だったろう。

浮気者め。

少しはあたしを見ろ。

ちよつとだけ物に嫉妬する。

心の狭いあたし・・・。

そんな思いをすぐに読み取る雨樹。

シクレ
『時雨もこっち来なよ』

普段ボケてるくせに変なトコだけ勘がいいよな。

優しく笑うなよ。

胸が痛くなるじゃないか。

病院は檻の中だ。

抜け出せない監獄。

それでも、あたしはあんたに会ったんだ。

二人して、名前に『雨』が入ってる。時の雨・・・・雨の樹。

雨樹の絵は好き。
嘘の無い絵だから。

仏頂面のあたしの似顔絵。

あんたと話すたびに笑い顔に変わった。

あんたは綺麗だった。
あたしは汚かった。

『時雨は綺麗だよ』

手首の傷を見ても、雨樹は微笑んできた。

そういえばさ、

風景しか書かないあんたが、最近になって人物画ばかりに熱中したの、あたし知ってる。

自惚れ・・・？
何とでも言え。

『ねえ、雨樹。
自画像書いてよ』

あんたが自画像書いたら、あたしは写真を残してやるよ。

人物なんて撮ったこともない、このあたしがだよ？

なあ、二人で残そう。

一瞬を刻み込んだ芸術を・・・。

絵も写真も時間を止める力があるんだ。
だから、残そう。

次の夏が来たらお別れだ。

聞こえるんだ。

小さな鈴の音が。

レンズ越しに訃音が・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1451c/>

レンズ越しの訃音

2010年10月22日00時01分発行